

デイリー・ジーザス・ニュース #295

木曜日...指導と逮捕の日：

「別れの説教」を行う

イエスは復活の喜びを約束する

ヨハネ16.16-22

=====

16 イエスは続けてこう言われました。『しばらくすると、あなた方はわたしを見なくなる。しかし、もう少しすると、あなた方はわたしを見るようになる。』

17 そこで、弟子たちのうちのある者は互いに言った、
もう少しすると、あなたたちはわたしを見なくなる。しかし』、もう少しすると、あなたたちはわたしを見るようになる『また、』わたしは父のもとに行くと言っているのは、どういう意味だろう『か』。

18 彼らは尋ね続けた。』』しばらく『とはどういう意味ですか。何を言っているのか、わかりません。』

19 イエスは彼らがこのことについて尋ねようとしているのを見て、彼らに言われた。

もう少し』』すると、あなたたちはわたしを見なくなるが、またもう少しすると、あなたたちはわたしを見るようになる『とわたしが言ったとき、どういう意味だったのか、あなたたちは互いに尋ね合っているのですか。

20よく聞きなさい。あなたがたは泣き悲しみ、そして世は喜びに変わる。あなたがたは嘆き悲しむが、その後、あなたがたの悲しみは喜びに変わる。21 女は子を産むとき、時が来たので苦しみを受ける。しかし、子が生まれると、その苦しみを忘れる。なぜなら、ひとりの子が世に生まれたことを喜ぶからである。

22』あなたたちにも同じことが言えます。今は悲しみの時ですが、わたしは再びあなたたちと会うでしょう。そのとき、あなたたちの心は喜びに満たされます。そして、だれもあなたたちの喜びを奪い去ることはできません。』

=====

THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	オリーブ山への道沿いのブドウ園
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第8段階: 受難週
	D. 木曜日: 指導と逮捕の日
	「別れの説教」を行う
タイトル	イエスは復活の喜びを約束する

今日の朗読で、イエスは喜びという特別な賜物について語り始めました。私たちはすでに、別れの説教の中で、イエスの平和 (DJN #290) と愛 (DJN #292) という賜物について見てきました。喜びは、三位一体の神と共に生きる人生の第三の要素であり、神との親密な関係の中で生きる人々の特徴です。

愛、喜び、平和は三位一体のようなものです。これらは三位一体の神との唯一の関係を表現する、3つの別個でありながらも関連した特性です。

イエスはヨハネによる福音書15章11節、16章20-24節、そして17章13節で、私たちに喜びを約束してくださいました。この7つの節には、喜びに関する8つの異なる言及があります。(聖書の中でそれぞれに印を付けておくとよいでしょう。) これらの節で、イエスは私たちの中でのご自身の喜びと、私たちの喜びが満たされること、つまり完全になることについて語られました。イエスご自身の喜びは私たちに即座に与えられます。しかし、イエスの喜びが絶えず注がれることによって、私たち自身の喜びが満たされることは、時間をかけて蓄積されるプロセスです。

イエスが私たちに平安を、この世とは全く異なる方法で与えてくださったように、喜びという贈り物も、単なる偶然の幸福とは根本的に異なります。イエスは、**「誰もあなたの喜びを奪うこと**

はできない」と言われましたが、それはイエスが喜びの源だからです。つまり、イエスの喜びは私たちの外的な状況から生じるのではなく、私たちの内側から、イエスにおける永遠で揺るぎない、不変のアイデンティティから湧き出るものなのです。

イエスは、ご自身の喜びを私たちに注ぐ三つの主要な方法について語られました。一つ目は、ご自身の愛を意識することです（15章11節）。私たちはイエスの愛に留まることによって、同時にイエスの喜びの力への扉を開きます。二つ目は、イエスの喜びを経験する方法、すなわち、復活したイエスの生きた臨在を意識することによる超自然的な喜び、これが今日の朗読の核心です。ダビデが言ったように、「**あなたの御前には喜びが満ちています**」（詩篇16章11節）。三つ目は、祈りが聞き届けられることです（16章23-32節）。これが明日の朗読です。イエスご自身も17章13節で、私たちの喜びが満ちあふれるように祈られました。

イエスは、神としての本質として、永遠に常に喜びに満たされてきました。喜びは人間の属性というよりも、神の属性です。さらに、イエスはかつて生きた誰よりも多くの人間的な喜びを実現しました。「**あなたは正義を愛し、悪を憎む。それゆえ、あなたの神である神は、喜びの油をあなたに注ぎ、あなたをすべての友よりも高くされた。**」（詩篇45章7節）

ですから、イエスが私たちを「私の喜び」で満たすと言うとき、彼は歴史上最も偉大な喜びの専門家として、可能な限り最も深く、最も強力な喜びの経験をもって話しているのです。

では、喜びとは何でしょうか？それは、**神が自らの存在と御業の完全さにおいて積み重ねる満足感です**。それは、神が全知であり、経験的に「これ以上良いことはない」と感じている感覚です。それは、神が完全であり、御自身のすべての行いにおいて完璧さを創造したという認識です。**喜びとは、完全な道徳的善と創造的善における究極の個人的な満足感です**。喜びが神の属性である理由がお分かりいただけたでしょうか？

私たちは完璧からは程遠い存在です。不完全さ、機能不全、機能不全、そして破壊について、私たちは専門家の資格を持っています。確かに、私たちの中には善を求め、完璧さの可能性を認識している部分もありますが、道徳的にも人間関係的にも、決してそれに近づくことはできません。では、どうすれば真の喜びを得ることができるのでしょうか？それは、イエスからの賜物、純粋な恵みだからです。

イエスは完全な義を成し遂げられました。すべてのことを完璧に行う喜びに満たされました。そして、イエスはご自身の義における完全さを私たちの内に創造し、イエスが私たちのために、そして御霊によって私たちの内に成し遂げてくださったことの善良さと完全さに対する揺るぎない意識を積み重ねられるようにしてくださることによって、ご自身の喜びを私たちと喜んで分かち

合ってください。だからこそ、喜びは、イエスが私たちをどれほど愛しておられるかという意識にとどまることから始まるのです。

これについては、明日の「イエスによる喜びの贈り物」のパートⅡでさらに詳しくお話しします。

応用：

福音書は、復活後のイエスに弟子たちが出会う場面を描写するたびに、イエスの生ける臨在の喜びが溢れ出る様子を描いています。弟子たちはイエスを目にした瞬間、力強い喜びに満たされました。これは、他のいかなる表現も不可能です。

あなたの喜びはイエス様だけにあります。幸福は様々なものから生まれます。喜びは神の特質であり、私たちへの唯一の賜物です。神から来るものだからこそ、移り変わるものではありません。絶え間ない喜びは、神を知ることによって得られる、私たちの揺るぎない人生の基盤です。

幸せと喜びを混同していませんか？どうしてそうになってしまうのでしょうか？